

女性が暮らしやすいように工夫を凝らしたマンションが、分譲、賃貸ともに増えている。収納スペースや防犯機能を充実させたり、リラクゼーションできるように浴室を広くしたり。特に、仕事で安定した収入があるシングル女性の心を捉えているようだ。

(吉田尚大)

### くつろぎの場

東京都内のマンションの一室で、大手メーカー勤務の女性(49)は「自分の家が一番ほっとする」とくつろぐ。昨年4月、約30平方メートルの1LDKを3000万円ほどで購入した。頭金を1割入れ、残りは30年返済の住宅ローンを組んだ。

部屋で過ごす時間が楽しみになり、早く帰宅できるように仕事の効率化を進めたことで、社内の評価も上昇した。「繰り上げ返済で早くローンを返したいと、働く意欲も高まりました」。女性が買ったのは、不動産会社「快適住まいづくり」(東京)が、主にシングル女性向けに「サクラテイアラ」というブランドで販売するマンションだ。同ブランドの標準的な物件は33〜35平方メートル、約3400万〜3800万円。他社の同水準のものより面積が1割ほど狭いが、価格も1割低い。さらに、クローゼットを天



## シングル向けマンション



# 防犯収納：快適住まい

井まで届く作りつけにして収納スペースを増やしたり、窓がこじ開けられると警報が作動したりといったアイデアを盛り込んだ。

小島ひろ美さん

女性は、「昇進などで収入が増えると、『生活も充実させたい』と考え、マンション購入に踏み切る女性が多い」と話す。

女性の声を反映  
シングル女性は不動産会社にとって重要な顧客層だ。住友不動産が2012年度以降に販売した5000万円以内の1LDKの購入者のうち、シングル女性は51%。同社は「男性の営業マンだと断りにくい」という女性の声を受けて、昨

年10月、首都圏7か所のギヤラリーに女性アドバイザーを配置した。

東京建物は12年、女性が暮らしやすいマンションを考えようと、女性社員によるプロジェクト「ブルーモワ」を開始。「化粧は洗面台でなくリビングでするので、洗面台の三面鏡はなくして収納スペースにする」

を、全国に12万户展開している。

パナホームは12年から、賃貸住宅「ラシーネ」を、女性向けとして約200棟建てている。広さ1坪(約3・3平方メートル)のゆつたりしたバスルーム、靴やブーツを大量に収納できる設備などが特徴だ。資産活用企画開発部長の箭内孝さんは「従来の賃貸住宅の設備では満足せず、快適な暮らしのためならお金をかけてもいい」という女性が増えてきている。標準的な住宅よりも入居率は高く、ほぼ満室状態だ」と手応えを感じている。



女性向けマンションの工夫

むだなスペースをなくすため、クローゼットは天井まで届く作りつけ

窓がこじ開けられると警報が作動

### 夜も訪問し 周辺環境チェック

女性がマンションを選ぶ際の注意点を専門家に聞いた。

総合不動産コンサルティング会社、さくら事務所の住宅診断士、川野武士さんは「物件自体だけでなく、周辺環境が安全かも確かめてほしい」と話す。例えば、昼だけでなく、夜も現地を訪れ、帰宅ルートに暗い場所がないかを調べるよう勧める。さらに、「スーパーやクリーニング店など、生活に必要な店舗が周辺にあるかもチェックして」と提案する。

購入する場合は、さらに注意点がある。同社の不動産コンサルタント、田中歩さんは「結婚や転勤の可能性があるので、駅が近いなど、売却や貸し出しのしやすい物件かどうかも

#### 選ぶ時の注意点

- エレベーターの中や裏口にも防犯カメラがある
- マンションの外に出なくてもいいゴミ置き場がある
- 帰宅ルートに、明るいコンビニや街灯、防犯カメラがある
- 即立ても届かない3階以上の部屋



見ておきたい」と指摘。また、「老後の生活資金に影響しないよう、なるべく定年退職前にローンを返済し終える形で資金計画を立ててほしい」と助言する。

|| 飯島啓太撮影